

平成22年11月25日

山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設を建設した場合と建設しなかった場合の経費の比較  
(収集・運搬及び代替案にかかる経費を加えた場合)

ケース	内 容	内 訳	経費 (億円)	経費総額 (億円)	ケース1 との差額 (億円)	備 考
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設を建設</li> <li>名越CCの延命化工事を行い、その後、広域の新炉を建設</li> <li>生ごみ・燃やすごみを戸別収集、家庭ごみの有料化を実施</li> </ul>	施設建設・維持管理	528	610	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 交付金を経費として含めた事業費584.9億円 (うち交付金 5,690,000千円) 交付金内訳：①名越延命化：10億円 ②山崎バイオ工事費：29.3億円 ③山崎バイオ大規模修繕：2億円 ④新炉建設：15億円 ⑤計画支援事業：0.6億円</li> <li>◆ 収集・運搬については、家庭系ごみの戸別収集を平成28年度当初から、有料化を平成28年10月から実施。有料化に伴い53億円の収入を見込んでいる</li> </ul>
		収集・運搬(増加分)	82			
5-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設はつくらない</li> <li>名越CCの延命化工事を行い、その後、広域の新炉を建設</li> <li>今泉CCは使用しない</li> <li>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設の代替案により、ごみの焼却量を削減(11,500t)</li> <li>燃やすごみをステーション収集</li> </ul>	施設建設・維持管理	447	512	△98	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 交付金を経費として含めた事業費 472.85億円 (うち交付金 2,585,000千円) 交付金内訳：①名越延命化：10億円 ②新炉建設：16.5億円 ③計画支援事業：0.1億円</li> <li>※バイオマス施設の代替案については、H27年度末までに 11,500t/年を削減する計画とした</li> <li>※減量化施策について (H23から実施を想定) <ul style="list-style-type: none"> <li>・H27には焼却量を28,500トン/年へ</li> <li>・自区外処理は減量化施策に連動して減少することとした</li> </ul> </li> <li>※但し、山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設計画を前提として平成22年度に実施した計画支援事業の交付金は、市の単独費となる可能性がある</li> </ul>
		収集・運搬(増加分)	4			
		代替案にかかる経費	61			
5-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設はつくらない</li> <li>名越CCの延命化工事を行い、その後、広域の新炉を建設</li> <li>今泉CCは使用しない</li> <li>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設の代替案により、ごみの焼却量を削減(15,300t)</li> <li>燃やすごみを戸別収集、家庭ごみの有料化を実施</li> </ul>	施設建設・維持管理	424	545	△65	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 交付金を経費として含めた事業費 461.1億円 (うち交付金 2,510,000千円) 交付金内訳：①名越延命化：10億円 ②新炉建設：15億円 ③計画支援事業：0.1億円</li> <li>※バイオマス施設の代替案については、H27年度末までに 15,300t/年を削減する計画とした</li> <li>※減量化施策について (H23から実施を想定) <ul style="list-style-type: none"> <li>・H27には焼却量を24,700トン/年へ</li> <li>・自区外処理は減量化施策に連動して減少することとした</li> </ul> </li> <li>※但し、山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設計画を前提として平成22年度に実施した計画支援事業の交付金は、市の単独費となる可能性がある</li> <li>◆ 収集・運搬については、家庭系ごみの戸別収集を平成25年10月から、有料化を平成26年度当初から実施。有料化に伴い52億円の収入を見込んでいる</li> </ul>
		収集・運搬(増加分)	60			
		代替案にかかる経費	61			

## 【算定条件について】

- 基本構想を平成21年度実績で修正し、平成22年～51年度までの30年間で対象に計算。
- 鎌倉市の年間処理理想量は40,000トンで計算。
- バイオマス施設の代替案は、H23年度から減量化施策を実施し、H27年度末までに11,500t/年削減する計画。
- 広域で新炉を建設する際、土木工事などの費用が必要になる可能性があるが、用地の特定ができないためLCCには含めていない。
- 山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設を建設した場合と建設しなかった場合を比較するため、既存の山崎浄化センターの維持管理費を含めている。
- 今後行なわれると予想される、山崎浄化センターの大規模改修費は含んでいない。
- 逗子市はH27年度末までに10,000t/年を削減する計画とした。